

セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

第 15 号 (2022 年 2 月 発行)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートします。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

KRY 山口放送 地域連携教育広報番組「はつらつ山口っ子」

地元地域や大学・企業等とのつながりによる豊かな学びの実現
～公立高等学校の「総合的な探究の時間」の取組～

2月20日(日)〈3月20日(日)再放送〉午前10時55分から午前11時10分まで

今回の「セポ・レポ・ハイスクール」では、2つの高校の取組を紹介します。

専門高校に対して、地域の教育資源の活用イメージをもちにくい普通科を設置している高校において、県立大津緑洋高校と県立山口高校の両校は、企業や地域の方々との連携・協働した探究活動を教育課程に位置付けることで、教科等横断的な探究活動を計画的・組織的に進めています。同時に、こうした取組は、連携機関の方々との一定期間の対話や関わりを通じて、生徒自らが探究課題と自己の在り方生き方を深く関連付けていくキャリア教育として、大学等への進学を希望する生徒が多く在籍する両校にとっても大きな効果をもたらしているようです。

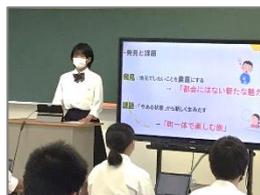
取組の内容や生徒の様子は、2月20日(日)10時55分からの地域連携教育広報番組「はつらつ山口っ子」で放映されることになりました。

大津緑洋高校と山口高校の取組や生徒の様子を、ぜひ、御覧ください！

県立大津緑洋高等学校（大津校舎）の取組



発表する生徒の様子



撮影や取材を受ける生徒の様子



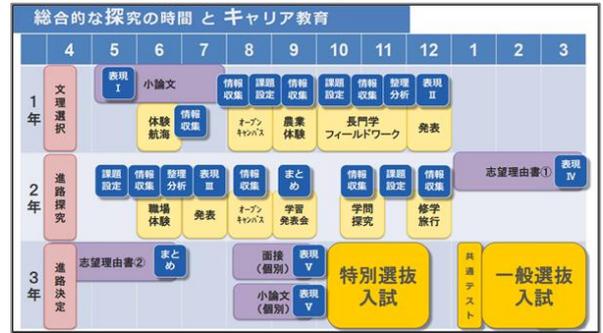
大津緑洋高校（大津校舎）の地域と連携した取組の大きな特徴は、キャリア教育という視点からカリキュラム・マネジメントを行い、既存の取組と地域と連携した取組とを「総合的な探究の時間」の中で融合させ、3年間のカリキュラムマップ図（次頁）を作成し、持続性や発展性を担保しているという点です。詳しくは、学校のウェブページや大津緑洋高校の取組についての取材記事が掲載されている「月刊高校教育 11月号」（右図）等を御参照ください。ここでは、2年生の学習発表会の取材を通じて発見し



た2つのポイントについてレポートします。

ポイント1 広がる生徒の主体的な学び

生徒たちは、フィールドワークや職場体験など地域の大人や専門家と接する中で、地域の可能性や学問や進路への興味・関心を高め。職場体験でお世話になったNPOに継続的にボランティアとして関わりはじめたり、「大津STEAMプロジェクト」という有志による課外の取組に参加し、探究を深めたりするなど、生徒の主体的な学びが広がっていることが印象的でした！



注目！

ポイント2 業務の負担感を軽減する学校側と地域側の役割分担



大津緑洋高校では、カリキュラムなどの全体計画の策定や校内の連絡調整は学年主任の岩本先生（左側）が、地域の連携先との日程調整などはCS活動推進員の岩本さん（右側）が担い、しっかりと役割分担をすることで、業務負担が集中しないよう工夫されているとのことでした。

注目！

県立山口高等学校の取組



探究活動の経過報告をする生徒の様子



新たなヒントを受け思索を深めている様子



木原製作所 木原社長と

山口高校理数科1年次生は、昨年度から「総合的な探究の時間」において、学校での学びと社会とのつながりに気付くことで、学びの質を高めるとともに自らの学びの地図を描くことを目標に、地元の企業や山口大学と連携した「地域連携型探究」に取り組んでいます。今回は連携機関である株式会社木原製作所に山口高校の生徒とともにお邪魔しました。ここでは高校の地域連携に対して企業の方や生徒が感じていることについてレポートします。

ポイント1 企業が考える学校との連携・協働の意義（木原製作所 木原社長）

生徒が自発的に課題を見つけ探究を進める「総合的な探究の時間」は素晴らしいと思う。これは、研究分野だけではなく、将来仕事を進めていく上でも大切な力だ。地元の企業や様々な所と協働して、そうした教育を進めていく山口高校の取組はすごいと思う。私たちも地域や国を担う高校生の教育に携われることは幸せであるし、地元にもこうした企業があるのだということをPRできることは、学校と企業、お互いにとってメリットだと考えている。



注目！

ポイント2 地元企業と協働して探究学習をするメリット（山口高校理数科1年次生）

中学校の「総合的な学習の時間」とは、長期間、じっくりと探究課題に向き合えるという点で違いを感じます。企業の方には、機材を貸していただいたり、工場の見学をさせていただいたり、とてもお世話になっています。また、とても具体的で専門的な視点や、思いもしなかった切り口を示していただいただけるので、探究を深めることができます。注目！

注目！